

川崎市休日（夜間）急患診療所の今後の方向性に係る全体方針（案）の報告 並びに川崎及び幸休日急患診療所の移転複合化（案）の パブリックコメントの実施について

川崎市健康福祉局保健医療政策部地域医療課

休日(夜間)急患診療所の今後の方向性に係る全体方針(案)について

1 背景及び経緯

- 休日(夜間)急患診療所は、市民の休日(夜間)における初期救急医療を担う施設として、各区に1か所設置されています。
- 平成17年度の地域医療審議会では、「当面1区1診療所を維持しながらも将来的には再編整備を検討する」との方向性を示しています。
- 平成29年度からは、公益社団法人川崎市医師会の自主事業として運営されており、相互に連携を図りながら体制の確保に努めています。
- 休日(夜間)急患診療所に勤務する医療従事者は、市医師会、市薬剤師会、市看護協会の協力のもと人員を確保しています。

- 医師の働き方改革など医療を取り巻く環境の変化や、市民の受療行動の変化に加え、施設の老朽化といった課題が生じています。
- 行財政改革プログラムでは、設置箇所数や運営手法のあり方等について検討することとしています。
- このような状況を踏まえ、診療所の今後の方向性に係る全体方針について、市医師会や市病院協会等の関係者と議論を重ね、取りまとめました。

休日急患診療所
連絡調整会議

救急医療体制検討委員会
(地域医療審議会部会)

川崎市
地域医療審議会

(1)各区休日急患診療所の施設の概要

多摩 (築29年)
(多摩区登戸1775-1)
小田急向ヶ丘遊園駅徒歩5分
多摩区役所合築
駐車場 区役所利用

麻生 (築41年)
(麻生区万福寺1-5-3)
小田急新百合ヶ丘駅徒歩3分
駐車場 区役所利用

※築年数は令和7年度末時点

宮前 (築41年)
(宮前区東有馬2-13-3)
東急鷺沼駅よりバス
駐車場 10台

高津 (築46年)
(高津区溝口5-15-5)
東急高津駅徒歩10分
駐車場 10台

中原 (築8年)
(中原区小杉町3-26-7)
武蔵小杉駅徒歩5分
川崎市医師会館内
駐車場 会館・区役所利用

幸 (築49年)
(幸区戸手2-12-12)
川崎駅よりバス(徒歩20分)
駐車場 6台

川崎 (築45年)
(川崎区富士見1-1-1)
川崎駅よりバス(徒歩15分)
駐車場 2台

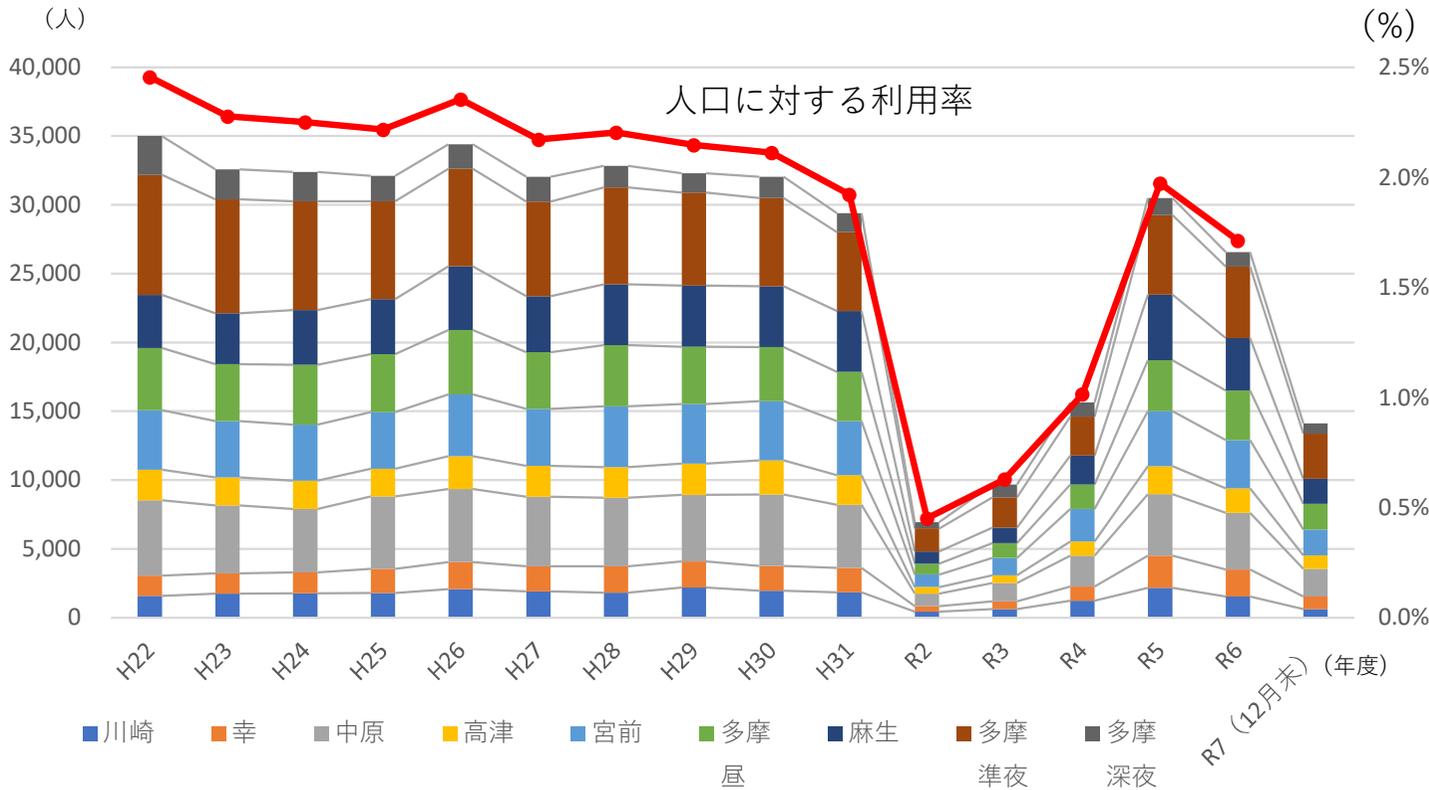
- 診療日
日曜日・祝日・年末年始
多摩のみ毎夜間
- 診療科目:内科・小児科
- 受付時間
9:00~11:30、
13:00~16:00
多摩のみ18:30~22:30(内科)
18:30~翌5:30(小児科)

(2)休日(夜間)急患診療所の役割・機能

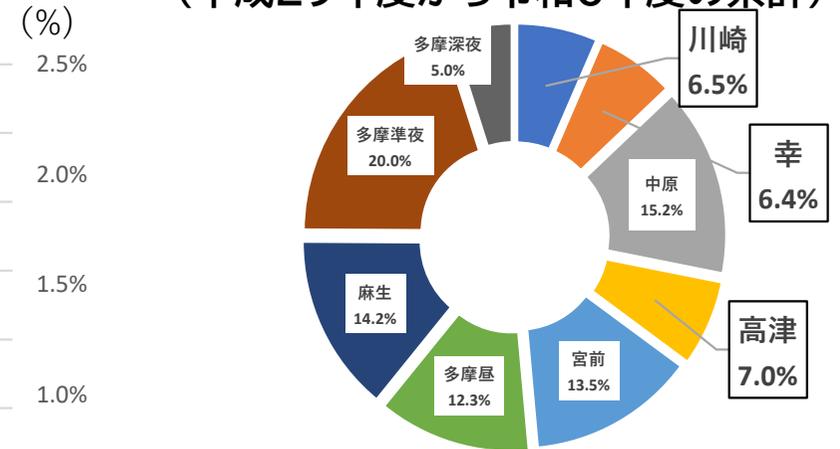
- 休日(夜間)における、内科及び小児科の初期救急医療を担う要となる施設です。
- 休日急患診療所を受診した、より精密な検査が必要な方や重症の方は、あらかじめ定められた二次救急病院等に紹介を行うなど体制を構築することにより、利用者の安全を確保しています。(二次救急医療へ繋ぐトリアージ施設)
- 休日急患診療所は、平日には市がん検診の専門医による二次読影や心臓病検診など地域医療に資する活動で活用されているほか、災害時には川崎市医師会の医療救護活動拠点として位置づけられています。

2 休日(夜間)急患診療所の現状と取り巻く環境

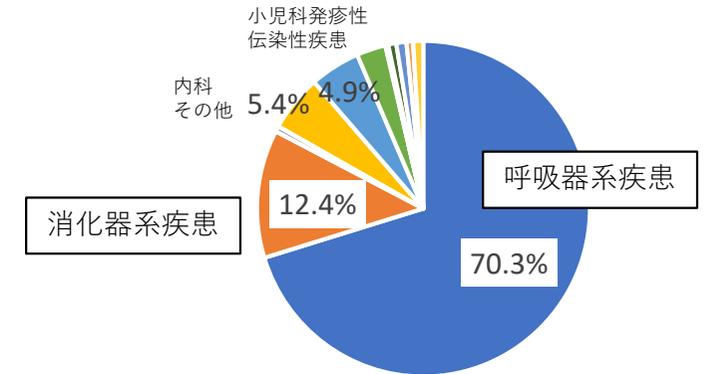
(1)利用者数(平成22年度から令和7年12月末実績)



(3)診療所別割合 (平成29年度から令和6年度の累計)



(4)疾患別利用者割合(令和6年度実績)



(2)来院手段別利用者割合(令和6年度実績)

来院手段	川崎	幸	中原	高津	宮前	麻生	多摩
徒歩・自転車のみ	38.3%	37.7%	40.8%	43.5%	13.9%	21.0%	17.8%
自家用車	39.9%	39.0%	33.7%	38.4%	68.2%	62.2%	60.7%
タクシー	11.7%	13.9%	12.0%	12.5%	11.6%	5.5%	12.0%
バス	7.4%	4.7%	4.5%	0.6%	4.5%	2.7%	1.7%
電車	0.8%	0.0%	7.3%	2.6%	0.1%	7.0%	4.3%
その他	0.5%	1.0%	0.6%	0.8%	1.3%	1.0%	0.9%
未記入	1.4%	3.6%	1.1%	1.6%	0.3%	0.5%	2.5%

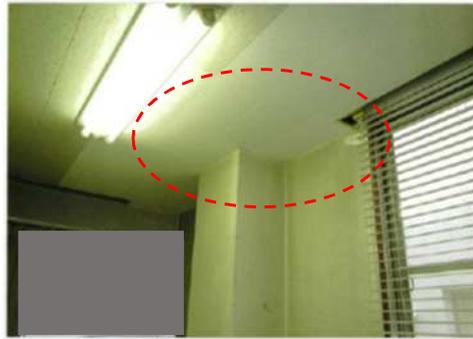
- 利用者数は、コロナ禍で大幅に減少し回復したのち、再び減少傾向となっています。
- 駐車場の台数に関わらず、自家用車での来院が多い傾向にあります。
- 診療所別の利用者数の累計では、川崎、幸、高津診療所が他の診療所の半数程度となっています。
- 疾患別では、インフルエンザなどの感染症をはじめとした呼吸器系疾患等の初期診療を中心に行っています。

2 休日(夜間)急患診療所の現状と取り巻く環境

(5)老朽化の状況

○主な工事の実施実績

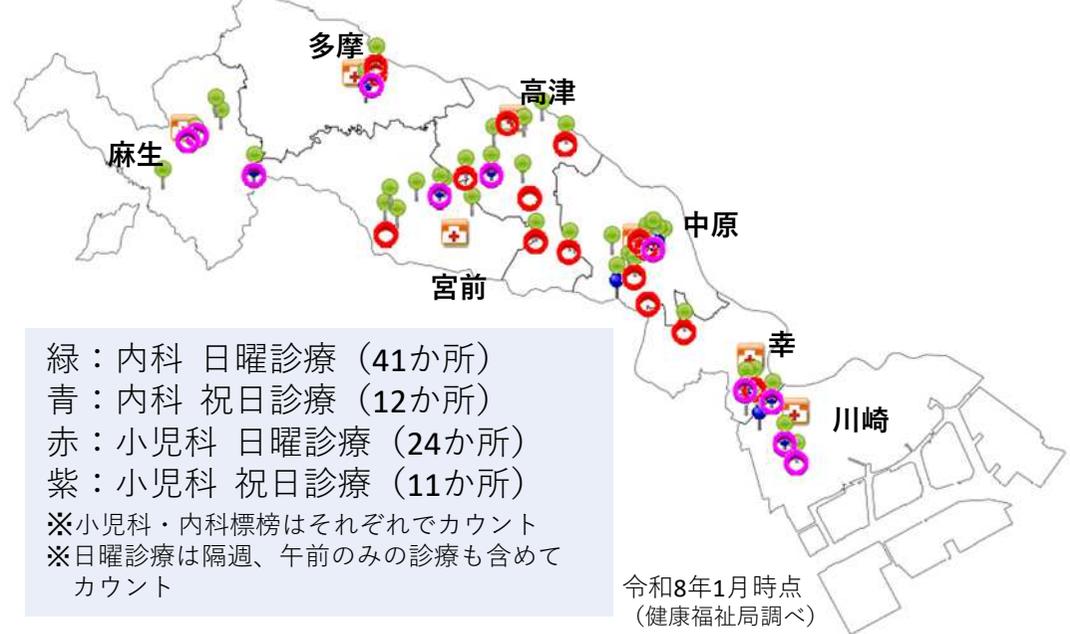
年度	診療所	内容
R4	多摩・川崎	空調改修工事
R5	川崎	トイレ排水管補修等工事
	麻生	外部階段手摺工事
R6	高津	換気扇フード工事
	多摩	空調改修工事(長寿命化)
R7	川崎	屋上冷却塔補修工事
	幸	天井タイル交換



▲ 幸休日急患診療所天井工事

- 川崎、幸、高津、宮前、麻生の各休日急患診療所には、昭和50年代の初頭から建設された施設です。
- これまで、耐震改修工事や空調改修工事など、必要な対応を実施してきました。
- 築年数が50年に近づいている施設もあり、今後も継続した対応が必要な状況です。

(6)市内一般診療所の休日診療の状況



(7)内科または小児科標榜で、休日診療を行っている診療所の開設年度別件数



令和8年1月時点

3 休日(夜間)急患診療所に係る課題と今後の方向性

課題①: 休日急患診療所に必要な機能について

呼吸器系疾患などの初期救急診療を行っていますが、医療を取り巻く環境の変化を踏まえ、必要な機能を整理する必要があります。

○利用者数は減少し、休日診療の一般診療所も増加傾向にありますが、インフルエンザなど呼吸器感染症などの患者が予約なく休日に受診できる初期救急医療機関としての役割は継続しており、初期救急医療機能を今後も確保する必要があります。
○二次救急医療機関への連携機能を継続することで、利用者の安全を確保することが重要です。
○平時には地域医療に資する活用、災害時には医療救護所活動を行う際の拠点となる可能性があることから、医療活動の拠点的機能は確保していく必要があります。

全体方針

○患者の受療行動の変化、近隣の医療機関の休日診療の状況、医師の働き方改革など、休日急患診療所を取り巻く環境が年々変化する中においても、引き続き‘市民の安心・安全’に資するよう休日・夜間における初期救急を担う施設、並びに二次救急医療へ繋ぐトリアージ施設として、公的診療所の役割を果たしていく必要がある。

課題②: 効率的・効果的な運営について

利用者数の減少や医療従事者の確保など、効率的・効果的な運営が求められています。

○効率的・効果的な運営手法として、一般診療所による輪番制や、休日急患診療所どうしによる輪番制は、各診療所の環境の違いや、広報手法など課題が多く、現時点では実施が難しいものと考えています。一方、利用者数の減少や医療従事者の負担軽減等の観点から、効率化を検討する必要はあり、引き続き今後様々な可能性について検討していく必要があります。
○資産マネジメントや効率的な運営を行う観点から、移転を検討する際には、他施設との複合化を含め検討していく必要があります。

○川崎、幸、高津、宮前、麻生の各診療所については、老朽化が進んでいることから、老朽化対策を行いながら、駐車場等が確保できるなど利便性がよい相応しい候補地が生じた場合は、移転等についても検討していく必要がある。

課題③: 施設の老朽化

築年数も50年に近づき、継続した対応が必要です。また、建替えや大規模な改修、移転なども含めた老朽化対策の検討を行う必要があります。

○既存施設については、機能を維持するため継続した老朽化対策を実施する必要があります。
○大規模改修や、現地建替えでは、アクセスの課題解決にはつながらないため、老朽化対策としての移転も考えていくことが必要です。
○資産マネジメントや効率的な運営を行う観点から、移転を検討する際には、他施設との複合化を含め検討していく必要があります。(再掲)
○市民の利便性を確保する観点から、移転を検討する際には、一定程度駐車場を確保できることが重要です。

○その際には、利用実績や地域における救急医療体制等を踏まえるとともに、医療従事者の負担軽減の観点から、再編複合化や輪番制なども含めて、より効率的で効果的な運営手法について検討を行う。

○再編複合化等を検討する際には、当該診療所に位置付けられている「災害時における医療救護活動拠点機能」や、がん検診の画像読影会等の実施場所などの機能の確保策について検討する。

4 休日(夜間)急患診療所の今後の方向性に係る全体方針(案)

○当該診療所の必要性

患者の受療行動の変化、近隣の医療機関の休日診療の状況、医師の働き方改革など、休日急患診療所を取り巻く環境が年々変化する中においても、引き続き‘市民の安心・安全’に資するよう休日・夜間における初期救急を担う施設、並びに二次救急医療へ繋ぐトリアージ施設として、公的診療所の役割を果たしていく必要がある。

○老朽化対策

川崎、幸、高津、宮前、麻生の各診療所については、老朽化が進んでいることから、老朽化対策を行いながら、駐車場等が確保できるなど利便性がよい相応しい候補地が生じた場合は、移転等についても検討していく必要がある。

○効率的かつ効果的な運営の確保

その際には、利用実績や地域における救急医療体制等を踏まえるとともに、医療従事者の負担軽減の観点から、再編複合化や輪番制なども含めて、より効率的で効果的な運営手法について検討を行う。

○医療活動拠点機能の確保

再編複合化等を検討する際には、当該診療所に位置付けられている「災害時における医療救護活動拠点機能」や、がん検診の画像読影会等の実施場所などの機能の確保策について検討する。

引き続き、上記の全体方針(案)を踏まえ、川崎市医師会と連携して休日(夜間)急患診療所の運営を安定的に行うとともに、それを支援することで、市民の休日(夜間)における初期救急医療を確保します。

川崎及び幸休日急患診療所の移転複合化(案)について

経緯

- 川崎及び幸休日急患診療所は、それぞれ築45年、49年と、老朽化が進んでいます。また、両診療所ともに駐車場の台数が少ないなど、交通アクセスに課題があり、コロナ以前から利用者数が他の診療所に比べ少ない状況が続いています。
- 両診療所の効率的な運営を図るため、令和3年度から北庁舎（旧第4庁舎）の利活用にエントリーするとともに、移転複合化に向けた検討を事業主体である川崎市医師会とともにしてきました。
- この度、北庁舎の本格活用に向けて、川崎及び幸休日急患診療所の移転複合化に関する（案）を取りまとめました。

施設概要

川崎 築45年

（川崎区富士見1-1-1）

川崎駅よりバス（徒歩15分）

鉄筋コンクリート造6階建

延べ面積 945.8㎡

駐車場 2台

幸 築49年

（幸区戸手2-12-12）

川崎駅よりバス（徒歩20分）

鉄筋コンクリート造2階建

延べ面積 674.2㎡

駐車場 6台



川崎休日急患診療所と幸休日急患診療所の課題

(1)施設の老朽化

- 川崎休日急患診療所は昭和56年2月竣工で築45年、幸休日急患診療所は昭和51年11月竣工で築49年とそれぞれ年数が経過しています。
- 両診療所ともに、建物や設備の老朽化対策が求められています。

(2)交通アクセス

- 川崎休日急患診療所は川崎駅から徒歩15分またはバス、幸休日急患診療所は川崎駅からバスと、最寄り駅から遠い状況です。
- 駐車場の駐車可能台数は、川崎2台、幸6台と少なく、利用者にとって不便な状況となっています。

(3)利用者数

	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7(12月末)
川崎	1,836	438	612	1,226	2,174	1,537	611
幸	1,778	398	581	1,025	2,323	1,958	913
他診療所の平均	4,133	877	1,199	2,125	4,236	3,766	1,895

1日当たり	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7(12月末)
川崎	23.8	6.1	8.5	17.0	30.2	21.3	11.8
幸	23.1	5.5	8.1	14.2	32.3	27.2	17.6
他診療所の平均	53.7	12.2	16.7	29.5	58.8	52.3	36.4

- 両診療所の利用者数を合わせても、中原以北（高津除く）の1診療所の利用者の平均と同程度です。

※両診療所の利用者が少ない要因として、交通アクセスのほか、近隣に病院や診療所があることも市民の受療行動に影響を与えていると考えられます。

(4)医療スタッフの確保

- 休日急患診療所を運営する医療従事者の確保は、事業主体である川崎市医師会が中心となって調整をしていますが、医師をはじめとした医療従事者の負担軽減の観点から、今後も持続可能な体制を構築する必要があります。

移転複合化について

北庁舎について



川崎市役所北庁舎 築35年
(川崎区宮本町3番地3)
川崎駅徒歩8分
延べ面積 6,901.26㎡
地上5階・地下1階
駐車場 10台程度(平面駐車場)

○北庁舎本格活用の決定

事務室等として利用可能な床面積を踏まえ、北庁舎への入居が可能な組み合わせを総務企画局庁舎管理課で比較検討。

令和8年2月 休日急患診療所等※+ 市立看護大学院及び看護大学講義室を最適な組合せとして、選択することが適当と判断

フロア	主な形状等
5階	体育室
4階	会議室
3階	事務室
2階	ホール、事務室
1階	エントランス、事務室
地下	武道場、シャワー室

1階と2階を休日急患診療所等で活用します

※薬事センター（医療資器材、衛生材料、薬剤などの保管等を行う機能）を含む

○アクセス



JR川崎駅から
徒歩8分

幸休日急患診療所
から車で7分

川崎休日急患診療所
から車で4分

北庁舎移転によるメリット

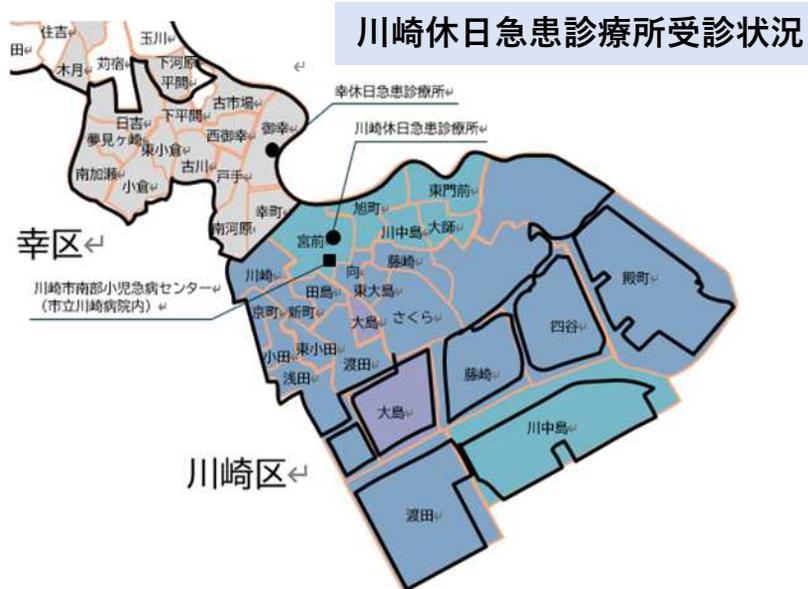
- 両診療所間の概ね中間エリアに位置し、最寄り駅（川崎駅）がターミナル駅になるとともに、駐車場の駐車可能台数が増加します。
- 既存の建物の構造を活かし、ゆとりをもった診療所スペース等の確保が可能となります。
- 大規模災害時には、休日急患診療所は、医療救護活動拠点として、保健医療調整本部からほど近い北庁舎において、迅速な対応や連携が可能となります。

※なお、災害時等における幸区医師会の活動拠点機能については、区役所との連携等を考慮し、区内での確保に向けて、医師会をはじめとした関係者とともに今後協議を進めます。

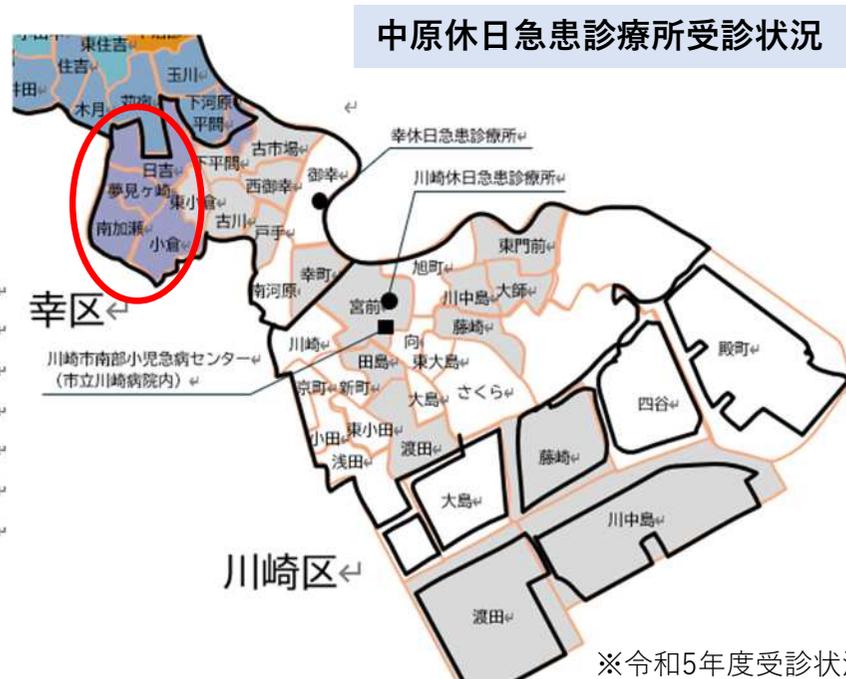
移転複合化について

川崎区民・幸区民の受療行動について

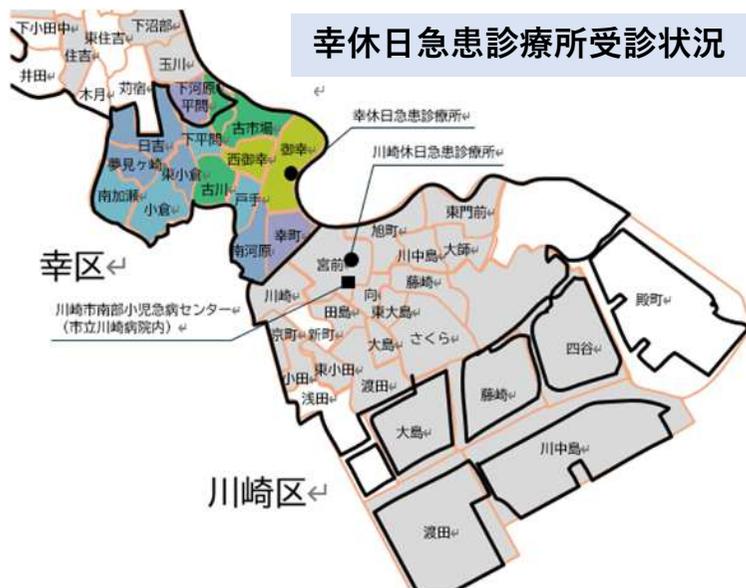
○川崎・幸・中原休日急患診療所の受診状況(小学校区ごと)



※人口に対する利用率



※令和5年度受診状況より分析



○川崎区民・幸区民の受療行動

川崎区民は、主に川崎休日急患診療所を利用しています。幸休日急患診療所にも川崎区内ほぼ全域からの利用があります。わずかに中原休日急患診療所の利用もある状況です。

幸区民は、御幸小学校区付近の方を中心に幸休日急患診療所を利用しています。日吉、夢見ヶ崎、南加瀬、小倉小学校区の方は、中原休日急患診療所も利用しています。また、川崎休日急患診療所にも幸区内全域からの利用があります。

○川崎区・幸区における日曜・祝日の診療状況

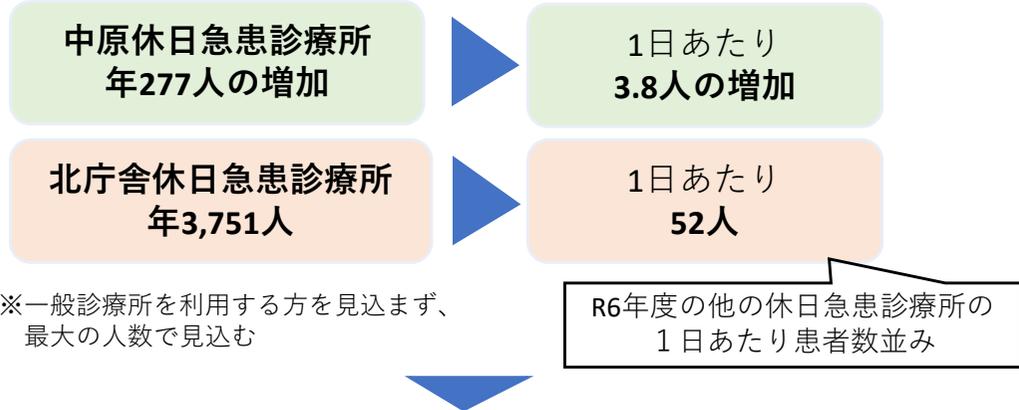
	日曜	うち祝日	日曜診療内訳 (診療所数)
川崎区	5か所	4か所	内科(2) 小児科(1) 内科・小児科(2)
幸区	4か所	1か所	内科(1) 内科・小児科(3)

令和8年1月時点 (健康福祉局調べ)

移転複合化について

移転複合化後の利用者数見込

○令和5年度受診状況から受診者数を見込む



移転複合化した場合でも、北庁舎休日急患診療所と中原休日急患診療所において対応可能

費用面での効果

ランニングコスト

○両診療所を移転複合化することで、光熱費や委託費等の経費や、医療スタッフの手当等の人件費など、年間約2,000万円の削減が見込まれます。

イニシャルコスト

- 両診療所とも築50年に近付いており、今後の方向性を検討する時期となっています。
- 現地建替え等新築工事を行った場合、2診療所分の建替え費用が必要となりますが、適地での移転複合化により1診療所分のメリットが見込まれます。

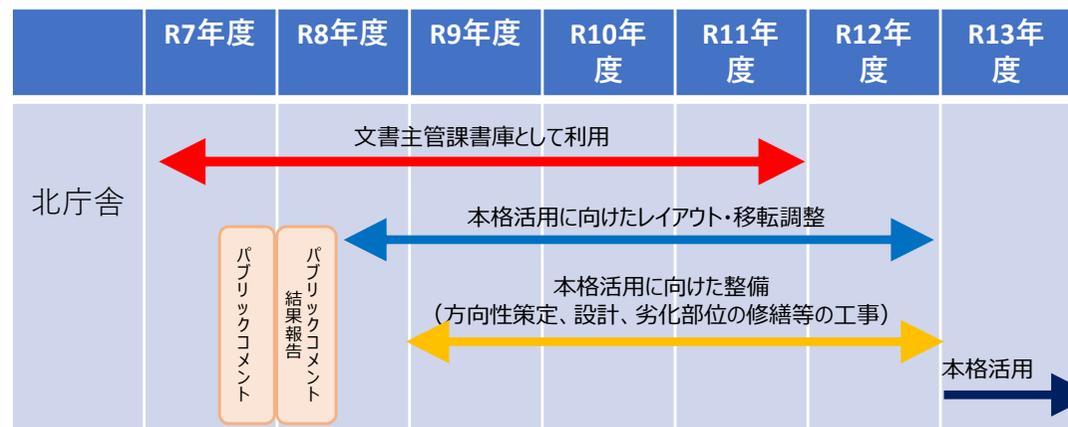
イニシャルコスト、ランニングコストともに費用面では効果が見込まれる。

移転複合化の今後の方向性(案)

- 資産マネジメントの観点から、単独で施設の建替えを行うのではなく、複合化などにより資産保有の最適化を図る必要があります。
- 北庁舎に移転複合化後も、診療所の必要な機能は引き続き確保され、建物の老朽化、アクセスの改善など、川崎、幸休日急患診療所の抱える課題の解決が見込まれます。
- 休日急患診療所の運営費を削減することができるとともに、医師をはじめとする医療従事者の負担軽減を図ることが期待されます。
- 移転複合化に関しては、事業主体である川崎市医師会と協議し、一定の御理解をいただいております。

川崎及び幸休日急患診療所の北庁舎への移転複合化による効率的かつ効果的な運営を実施

今後のスケジュール



- 令和8年2月10日 健康福祉委員会報告
- 令和8年2月17日～3月19日 パブリックコメント実施
- 令和8年4月中旬～ 健康福祉委員会報告(結果報告)

- 令和12年度までは、既存の川崎休日急患診療所及び幸休日急患診療所において、老朽化対策を講じながら、診療を継続します。
- 北庁舎の補修や改修工事等を行い、休日急患診療所としては令和13年度からの供用開始を予定しています。